

けんこう まも 健康を守るということ

とじょうこく けんこうもんだい 途上国の健康問題

かぜをひいたり、おなかをこわしたりしたとき、日本だったらお医者さんに行けばなおるといふ安心感がありますね。でも、世界には、日本ではなおせる病気でも死んでしまう人がたくさんいます。なぜだと思いますか？途上国の病気と健康について、アフリカのとある国に住むティナ（七歳）の家族を通して紹介します（全四回）。準備はいいかな？ティナの住む世界へ行ってみよう！

11月、12月のテーマ けんこう まも 健康を守るということ	
1時間目	とじょうこく けんこうもんだい 途上国の健康問題
2時間目	途上国の医療の今
3時間目	予防の取り組み
4時間目	健康を守るために

「病院までの道のり」の巻

①ティナの家族は、家のすぐとなりにある、ため池にたよって生活しています。飲み水、体を洗う水、すべてが池の水のおかげ。でも、この池がティナの家族にわざわざをもたらすこととなります。

②ある日、突然ティナの弟フランシス（三歳）は下痢になり、高熱を出しました。途上国では、そうかんたんには病院へ行けません。病院までの道のりは遠く、お金もかかるので、ようすを見るしかないのです。

③三日たっても熱が下がりません。お母さんとティナは、歩いて三時間はなれた病院まで行く決心をします。

途上国には、病院がまだあまりありません。ティナの家族のように一大決心をしないと診察を受けられない人がたくさんいます。

④三時間歩いて、やっとのことでたどりついた病院。でも、そこには、長い長い行列が……。フランシスは、何の病気にかかっているのでしょうか？お医者さんに診察してもらえるのでしょうか？

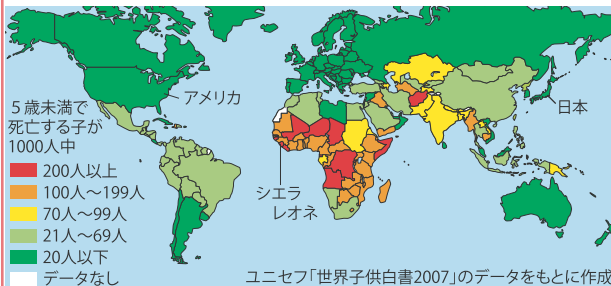
かんが 考えてみよう

5歳の誕生日を迎えられない子

5歳になる前に亡くなる子どもは、日本では1000人中4人です（ユニセフ「世界子供白書2007」から）。それでは、質問。次の国で亡くなる子どもの数は、日本より多いと思う？少ないと思う？

- ①アメリカ ②シエラレオネ（アフリカ）

答えは、下を見てね。



上の地図は、5歳になる前に亡くなる子が1000人中何人いるかを色分けした地図です。日本は20人以下なので濃い緑色ですが、オレンジ色（100人～199人）、赤（200人以上）の国もたくさんあることがわかりますね。

なぜだと思いますか？大きな理由の1つとして、医療のしくみが整っていないことがあげられます。多くの途上国では、医師の免許を持っていなかったり、治療する技術が足りなかったりするお医者さんが多いのです。それに、病院などの施設が整っていないこともあるので、病気がなおらずに亡くなってしまうという現実があるのです。

①日本より多い(1000人中7人が5歳になる前に死亡)
②日本より少ない(1000人中282人が5歳になる前に死亡)



けんこう まも 健康を守るということ

とじょうこく いりょう いま 途上国の医療の今

日本とちがって、アフリカに住むティナの家族は、病院へ行くにもひと苦労。世界では、片道何時間も歩かないと病院に行けなかったり、病院に着いてもお医者さんの数が足りなくてすぐにみてもらえなかったりして、手おくれになることも多いのです。病院を建てるにはお金が、お医者さんを育てるには教育が必要。どちらも長い時間がかかります。さて、ティナの弟のフランススは、どんな病気にかかっていたのでしょうか？

11月、12月のテーマ けんこう まも 健康を守るということ	
1時間目	途上国の健康問題
2時間目	とじょうこく いりょう いま 途上国の医療の今
3時間目	予防の取り組み
4時間目	健康を守るために

「先生、弟の病気は？」の巻

- ① (前回のあらすじ) ティナたちは、病気にかかった弟のフランススを病院まで三時間かけて連れてきました。でもそこにあったのは古びた病院と、長い長い患者の列だったのです。
- ② 長い時間待って、やっとお医者さんにみてもらえることに。途上国の病院にはかぎられた数のお医者さんしかおらず、よい機器もないので、最低限の検査しかできません。当然、はっきりとした診断もできなくなってしまうのです。
- ③ 検査結果が分からない場合、多くは身近な病気であるマラリアと診断されることがあります。フランススは、マラリアと赤痢にかかっていると診断されました。どちらの病気も、ティナの家のため池と関係の深い病気だったのです。
- ④ 薬をもらってひと安心。また、三時間歩き、家にたどり着いたのは真夜中でした。お母さんは、「毎回これではきつい……。なんとか病気を防ぐ方法かんがはないかしら？」と考えました。

赤痢ってどんな病気？

赤痢は、腹痛、発熱、下痢が主な症状で、口から赤痢菌という細菌が入ることによって感染する病気です。戦後すぐの日本では年間10万人以上の人が赤痢にかかり、2万人近くが亡くなったのですが、今では患者数は年間1000人ほどで、亡くなる人はほとんどいなくなりました。これはお医者さんや病院の数が多くなった、よい薬が手に入るようになったという以外にも理由があります。何だと思いませんか？

それは、学校で給食を食べる前にせっけんで手を洗おうと教えられているように、日本では「予防」という考え方が広まってきたからでもあるのです。予防をきちんとしていれば、治療のための時間やお金を使わずに健康に過ごせるのです。

考えてみよう

Q (質問) 日本では人口1万人あたり20人のお医者さんがいます。アフリカのタンザニアでは、人口1万人あたり何人のお医者さんがいると思いますか？

- ①10人 ②3人 ③1人以下

ヒント タンザニアには人口1000人に対して病院のベッド数は1つしかないけれど、日本は15近くあります。



もっと知りたい!



水をきれいにするちょっとした工夫



途上国の井戸のない地域では、川や池に水をくみに行かなくてはなりません。でも、どろや砂で水にごってることがあります。にごった水をきれいにする方法の一つが「ペットボトル浄水装置」(写真、伊藤加奈子撮影)。ペットボトル二本とトイレトペーパーだけでかんたんに作れます。

東京都の保健所の職員だった人見達雄さんが、災害で水道が止まっても飲み水を手に入れられるようにと考えました。それが応用されて、現在は途上国の青年海外協力隊が使っています。

身近なものも、知恵をしぼって工夫することで、命を守ることにつながるのですね! (この装置に殺菌力はありません。そのまま飲めない水もあるので、注意してください)

けんこう まも 健康を守るということ

よぼう とく 予防の取り組み

一人の子どもが生きてするために、一日にどのくらいの量の水が必要か分かるかな（答えは下に）。多くの途上国には水道がなく、人々は何キロも離れた井戸に水をくみに行ったり、よごれたため池の水を使ったりしています。不衛生な水のせいで赤痢にかかり、下痢などが原因で多くの子どもたちが命を落としているのです。今回は予防の大切さについて考えていきましょう。

11月、12月のテーマ けんこう まも 健康を守るということ	
1時間目	途上国の健康問題
2時間目	途上国の医療の今
3時間目	よぼう とく 予防の取り組み
4時間目	健康を守るために

「知らないって、コワイ」の巻

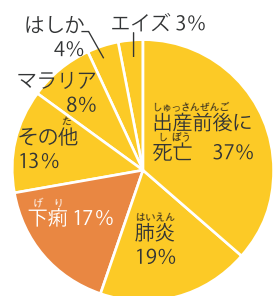
- 赤痢とマラリアにかかり家で休んでいるフランシス。お母さんは、お医者さんから、赤痢はため池の水からばい菌がうつったことなどが原因だと聞きましたが、何をどう気をつければいいのか分かりません。
- ため池には、ばい菌などがうようよ。飲み水や食事を使う水は、安全な井戸か、ためた雨水を火でわかしてから使うのが大切ですが、お母さんはこのことも知りません。のどがかわいたティナは、ため池の水を直接飲んじゃった！
- 水をくむ場所の近くにトイレがあると、ばい菌がため池にまで流れてきます。これを防ぐため、トイレは水をくむ場所からはなれたところにつくるのが大切。このことも知りません。ティナはトイレから出た後に手を洗わなかったよ！
- 外遊びをして家に帰ってきたティナ。ちょっと待って！ここにも危険があります。「外から帰ってきたら手を洗う。身の回りは清潔に」。自分や家族、友だちの健康を守るための基本も、ティナたちは知りません。



病気の予防、知ることが大切！

右のグラフを見てみましょう。途上国で5歳になる前に子どもたちが亡くなる主な原因です（世界保健機関、2006年）。赤痢による下痢などで命を落とす子が17%もいます。大きな理由は、きれいな水がないことです。もう1つにはティナたちのように病気の予防法を知らないことにもあります。

みなさんは、授業中に気分が悪くなったらどうしますか？ たいていは保健室の先生にみてもらいますよね。でも、途上国の学校では、保健室があることも、みんなの健康管理をしてくれる養護の先生がいることもまれです。そのほか、栄養バランスのとれた給食や身体検査、予防接種、歯科検診など、日本の学校では当たり前のことも、世界的にみるとめずらしいのです。さらには、きれいなトイレ、蛇口をひねると出てくる水もあります。きれいな水でトイレの後や給食前にせっけんで手を洗うことは、健康な生活を送るのに必要ですが、途上国では学校や家で学ぶ機会はほとんどないのです。



小点数以下四捨五入のため合計は一〇〇になりません

井戸で水をくむブルキナファソの女性



けんこう まも 健康を守るということ

けんこう まも 健康を守るために

ティナの弟フランシスは、だんだんと元気になってきました。前回、下痢にならないためには、水をわかして飲んだり、手を洗ったりすることが大切だと分かりましたね。今週は、そんなティナたちの村にやってきた青年海外協力隊のお姉さんのお話。お姉さんは、日本からやってきたボランティアです。国によって、わたしたちの健康をおびやかす病気はちがいます。でも、いつも健康でいたいという気持ちはみんないっしょだよ。

11月、12月のテーマ けんこう まも 健康を守るということ	
1時間目	途上国の健康問題
2時間目	途上国の医療の今
3時間目	予防の取り組み
4時間目	けんこう まも 健康を守るために

「明るい未来に向かって」の巻

①青年海外協力隊のお姉さんが、子どもやお母さんたちを集めて、マラリアの話をしています。ハマダラカという蚊にさされることでうつる病気なので、蚊帳の中に入って寝ることが大切なのです。

②次の日、お姉さんは井戸の前にみんなを集め、きれいな水を使う大切さについて教えました。飲む水は火でわかして必ず殺菌すること、トイレは生活に使う水をためる場所から離れた場所を作ることを呼びかけています。

③井戸の前でのお話が終わると、今度は、ボロボロになった病院の建て直しを始めました。村に病院ができれば、三時間歩いて遠くの病院に行く必要もありません。ティナもフランシスも積極的に手伝っています。

④また日がのぼり、ティナの日が始まります。ティナは今、勉強しています。フランシスの病気をなおしてもらって以来、お医者さんになりたいと思っています。新しくできた村の病院で、病気の人をなおしたいんです。



蚊帳ってなあに？



みなさんは蚊帳って見たことがありますか？寝るときなどに蚊が入ってこないようにするおおいです。上の写真（ニジェールで撮影）のように、細かい網の布を天井から床までつるして使います。日本でも、むかしは蚊帳を使っていたんですよ。今では、網戸がその役目をしています。

考えてみよう

みなさんは、健康でいることが当たり前のことだと思いませんか？ときどきかぜなどをひくと、改めて健康のありがたさを感じますよね。

健康は当たり前のことではないし、今まで見てきたように、世界には病気になっても、病院が遠かったり、薬が手に入らなかったりして、病気をなおせない人もたくさんいます。

そんな世界を変えるために、今すぐできることは少ないかもしれませんが、お医者さんをめざしてがんばっているティナのように、みなさんも、自分の健康を大事にしながら、よりよい明日をめざして、自分たちにできることを考えてみてください。

もっと知りたい!



びょう こ シャーガス病とホンジュラスの子ども

「わー、ゴキブリみたい」「この虫よく家の中で見るよ！」中央アメリカ・ホンジュラスのある小学校の教室では、国語や算数などの授業のほかに、この地域で広がっている「シャーガス病」についての授業が行われています（写真）。シャーガス病は、主に吸血性カメムシ（サシガメ：イラスト）という虫にさされることによってうつる病気で、中南米で多く発生しています。かぜに似た症状が出るがありますが、気づかずに放っておくと治療薬がききにくくなり、なおすのが難しくなってしまいます。



小学校ではシャーガス病をテーマにした作文コンクールやサシガメのぬり絵、劇など、子どもたちが楽しみにしているイベントがたくさん行われています。とてもゆかいな「シャーガス病の歌」もあって、地元の子どもたちに人気なんです。